集書日誌68　高橋新太郎

学習院女子大学教授

日本ファッシズム聯盟機関誌『ファッシズム』

社会思想関係を中心とした充実した集書で知られる、きさらぎ文庫から『ファッシズム』2号～7号（昭和7年）、『文化』3巻2号、『人と人』（1巻4号）等々を得た、「日本ファッシズム聯盟綱領」には〈国家又ハ公共ノ利益ニ背反スル私益追求ノアラユル思想行動ノ排撃〉、〈天皇政治ノ徹底的実現〉と〈全国民生活ノ保証〉、〈資本主義機構ノ下ニ於ケル一切ノ経済組織ヲ変革廃棄シ進ンデ国家統制ニ拠ル経済形態ノ確立〉、〈日本民族発展ニヨル国民生活ノ充足ノタメニ世界ニ対シ土地及資源ヲ要求スルノ権利ヲ主張〉、〈形骸ニ過ギザル既成宗教ノ打破ヲ敢行シ進ンデ国教ノ樹立ヲ期ス〉、〈教育ノ基本精神ハ国家奉仕ニ一貫スベキコトヲ主張シ……徹底セル教育ノ機会均等ノ実現ヲ期ス〉、〈国家並ニ民族精神ヲ分裂弛緩セシムル一切ノ芸術ヲ排撃シ進ンデ国民精神ノ振興ヲ目的トスル国民主義芸術ヲ高唱シ普及〉等を謳っている。中央執行委員長野島辰次。中央執行委員には、福士幸次郎・妹尾亮吉・林田英雄・葛生貫・和田倫・的野巌が名を連ねる。機関誌は昭和七年三月創刊で、林癸未夫が顧問格で毎号のように執筆している。創刊号から岩崎純孝の「ファッシズム文学論」の連載、直木三十五の寄稿もあり、ムッソリニ年表・ヒットラア年表も付され、ファッシスト党員の規律に関する規則まで紹介されている。六月第四号は「共産党撃滅特輯号」で福士の「時評・所謂国家非常の場合」・林の「共産主義を排撃しファッシズムを謳歌す」・野島の「マルクスの夢を追ふの愚を速やかに止めよ」・高須芳次郎「鵜呑的共産主義の非現実性を暴く」・赤神良譲「方法が誤つてゐる」・戸川貞雄「プロ文学価値なし」の外、野口雨情が民謡「国家節」を寄せている。なおこの号は、和田の「斎藤内閣に呆れろ」が安寧秩序紊乱で発禁処分を受けた。〈現在の世相を直視して、祖国日本を建国の精神に取戻すことが正義であるならば、もつと暗殺事件が実行されてゐゝわけだ。暗殺事件それは日本改造の為の一つの進歩だと見ることが出来る。血盟団や青年将校を罰する前に、国民生活をこゝに至らしめた一部の金融財閥や政治家を処罰すべきではないか〉等、和田の直接行動肯定の筆致に因る禁止。七月第五号「農村救済特輯号」では、蓑田胸喜が「日本ファッシズム〈しきしまのみち〉」、池岡直孝が「公共善・国民道徳の根幹を養成せよ」を寄せ、全国の会員が農村の窮状を訴えている。八月第六号には、野島の「ファッシズム芸術理論アウトライン」がある。